資料２

第10回選定のグランプリ、優秀賞
及び第10回記念賞（案）

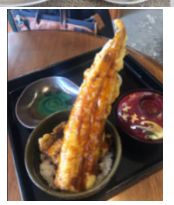
令和5年11月10日

第10回選定のグランプリ、優秀賞及び第10回記念賞（案）

コミュニティ・地産地消部門

グランプリ

大田商工会議所（おおだしょうこうかいぎしょ）（島根県大田市（おおだし））



・漁獲高の大半が県外に出荷され、市内でほとんど消費されない大田市産あなごの大きさと美味しさに着目して、10年間で14％の人口減少が進む大田市の活性化を目指し、「大田の大あなご」の名称でブランド化に取り組む。

・大きくなるにつれて脂質が増え旨味成分が増していることをデジタル検証によって確認。観光DMOや飲食店等を巻き込んで協議会を形成し、料理コンテストの開催や出前授業を通じて大あなごの魅力を継続して発信。

・市内のあなごの取扱量は、0.2ｔ（平成30年度）から38ｔ（令和４年度）へ増加。料理提供店舗は、２店舗（平成30年度）から30店舗（令和４年度）に増加。市場での競り値はかつて500円/kgだったが1,300円/kg程度で推移。

・食品加工業者に商品開発を依頼し、加工品数は、１種類（平成30年度）から19種類（令和４年度）へ増加。飲食店と加工商品の年間売上は、270万円（平成30年度）から５億円余（令和４年度）に増加。

【有識者懇談会委員のコメント】

・「大あなご」の魅力をデジタル検証することで見える化、ブランド化に成功。素晴らしい視点だと評価。

・「大あなご」の価値や美味しさをデジタルも活用して「見える化」し、多彩な住民が力を合わせて数々のチャレンジを行っている。顧客視点でブランド化を進め、関係者が得意なことを活かして力を合わせてきた成果も伺え、活力が感じられる。

・商工会議所を中心に素晴らしい漁業のブランド化。

・大あなごの美味しさのデジタル検証等、消費者にわかりやすい魅力の発信と、結果が数字にはっきりと表れている。漁業者の所得向上への貢献もとても評価できる。

コミュニティ・地産地消部門

優秀賞

北海道中標津農業高等学校マネージメント研究班（ほっかいどうなかしべつのうぎょうこうとうがっこうけんきゅうはん）（北海道中標津町（なかしべつちょう））

・農業を学ぶ高校生が「町へ恩返しできることはないか」と、地域の幼稚園児から中学生まで全学年に対する食農教育の先生として、地域の特産物の栽培から地域イベントの創造まで幅広く活動。

・小中学生が食育を体験し、高校生になると先生として活躍するといった人材の循環も誕生し、次の世代への継承が実現。高校卒業後は幼稚園教諭を目指し、新しい土地で食育活動に携わる夢を持った生徒も現れ、他地域への広がりも期待。

【有識者懇談会委員のコメント】

・高校生が発案し、先生となって子供たちに体験学習や食育を教える企画が素晴らしく、活動が面として進化している点が高く評価できる。

・18年間の長期継続と、教えられた子供たちが、教える側にたつという継承が素晴らしい。地元で生産される食材を知ることは、生産者を知ることであり、地域の連携を深める素晴らしい取組。

・親の世代の介入がなく、未来を担う高校生と子供たちが栽培から食育を考え、自分たちがどうしたいかを考える。自分自身の食の考え方をしっかりと構築できる非常に素晴らしい企画である。

第10回選定のグランプリ、優秀賞及び第10回記念賞（案）

優秀賞

コミュニティ・地産地消部門

大月町備長炭生産組合（おおつきちょうびんちょうたんせいさんくみあい）（高知県大月町（おおつきちょう））

・地域に自然分布するウバメガシから備長炭を生産。貴重な資源であるウバメガシを将来に残すため、循環利用可能な山づくりや苗木づくり、植樹祭等の人と自然の共生社会づくりを実施。

・資源循環利用のための活動を付加価値として備長炭の価格向上に繋げ、備長炭生産者や原木の伐採を担う森林組合・自伐林家の所得向上に貢献。

【有識者懇談会委員のコメント】

・<u>製炭業で収益</u>をあげている点。

・林業の持続可能な成功例。地域資源「ウバメガシ」を「備長炭」でブランド化。

・備長炭をさらに成長させるため、県外からも知見と交流を得て、持続可能な未来の構想を掲げ、多彩な人を巻き込んで実現している。

優秀賞

ビジネス・イノベーション部門

社会福祉法人　フォーレスト八尾会（しゃかいふくしほうじん　やつおかい）（富山県富山市（とやまし））

・町の原点である養蚕業に着目し、桑畑の再生や桑のリブランディングに取り組む。桑茶商品や、剪定枝のバイオプラスチック化、桑の農業体験と料理を楽しむ農泊ツアー、スポーツチームとの連携、学校での養蚕の講師など多様な取組。

・桑のリブランディングにより、桑茶葉や桑菓子等の売上は、190万円（令和３年度）から350万円（令和４年度）に急増。マイクロリーフやエディブルフラワーなどの売上は、770万円（令和４年度）とコロナ禍前の水準にほぼ戻った。

【有識者懇談会委員のコメント】

・特産品「桑」の有効活用。「養蚕」の物語性もあり、<u>食育・農福連携・地域ぐるみの支援と、バランスのとれた展開</u>に期待。

・伝統の八尾の桑を生かした商品開発から始まり、現在では<u>農業、教育、企業、福祉、スポーツまで総合的な連携</u>が取られている。<u>地域循環共生圏の成功事例</u>。<u>総合的に高いパフォーマンスを出している</u>

優秀賞

ビジネス・イノベーション部門

株式会社デイリーファーム（かぶしきがいしゃ）（愛知県常滑市（とこなめし））

・地元産米をエサとして使った付加価値の高い卵を生産。消費者の認知向上を目的として、６次産業化施設（洋菓子店・レストラン・ベーカリー）で、卵と地元食材を活用した商品を販売。

・６次産業化施設の売上は、約1.5億円（平成30年度）から約2.9億円（令和４年度）に増加。来客数は、約13万人（平成30年度）から約17万人（令和４年度）に増加し、常滑市の観光客誘致に貢献。

【有識者懇談会委員のコメント】

・<u>地域雇用に貢献</u>し、<u>地域と一体になりながら、事業を拡大</u>していることが素晴らしい。またベーカリーの運営等、新たな取り組みもあることから、さらなる発展を期待したい。

・地域の原料をエサにしたり、<u>高付加価値な鶏卵を中心にした関連事業の確立と集約</u>。雇用、観光、食育等の多岐にわたる地元への貢献が素晴らしい。「たまごのテーマパーク」という発信もユニーク。

第10回選定のグランプリ、優秀賞及び第10回記念賞（案）

優秀賞

個人部門

笠木（かさぎ）　真衣（まい）　（島根県大田市（おおだし））

・平成22年から羊毛加工の技術を学び、平成28年に創業。平成30年に島根県大田市に移住して、ヒツジの飼育を開始。飼養のノウハウを蓄積しながら自家羊毛製品を開発。

・雑草が餌になるため、近隣住民と連携して中山間地に放牧することで遊休地が活用され、里山の景観維持に貢献。年１回の毛刈りイベントに100人程度が参加する他、遠方から放牧風景の見学者が増加。

【有識者懇談会委員のコメント】

・近隣住民や地域団体と連携した羊放牧だけでなく、地場野菜や米を使った料理や地元飲食店のイベント出店など、地域振興に寄与。

・ウールソックス、羊米など、個性ある商品をストーリー性の中でアピールを続け、国内外でも認知や共感を広げている。スタイルのある情報発信力はさらに多くの方から支持される可能性があると思われ

第10回記念賞

仙北市農山村体験推進協議会（せんぼくしのうさんそんたいけんすいしんきょうぎかい）　（秋田県仙北市（せんぼくし））

・第３回選定後、旅行業務取扱管理者資格の取得や地域限定旅行業の登録により、個人ではなく協議会としてワンストップサービスの体制を構築。任意団体から法人化。コロナ禍でも独自の感染症ガイドラインを作成し、万全の態勢で積極的に受け入れ。

・日本語と英語で制作したホームページで体験情報を提供し、リクエスト型で予約手配を実施することで、問い合わせが増加しており、ホームページ訪問者数は、約5,700件（平成30年度）から約40,400件（令和４年度）に増加。

・キャッシュレス決済の導入、地域の実情に精通するネイティブスピーカー２名の配置等により、農家民宿等外国人宿泊者数は、801人（平成27年度）から2,554人（令和元年度）に増加。コロナ禍で落ち込んだが、令和5年度は2,050人を見込む。

【有識者懇談会委員のコメント】

・以前からの活動に加えて、Ｈ３０年には国家戦略特区を活用して、英語も加えたＨＰへの訪問者を急激に増やしており、リクエスト型の宿泊・体験旅行の今後の急増が期待される。

・継続して向上していて素晴らしい。表彰年から年月が経ち、コロナも経験しているのに、継続していること、更に向上していることを評価。